農 業 技 術 情 報

令和７年１０月１５日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター
十勝東部支所　015-572-3128
ＪＡ十勝池田町　572-3131
高島支所　573-2111
池田町農林課　572-3118

農作物の生育･作業の遅速(10 月 15 日現在)　　( )内は平年値

作　物　名	遅速日数	生　育　状　況	農作業状況
秋まき小麦	-4	草丈　10.3 (11.9)cm　茎数 183(247)本/㎡ 葉数　1.7 (2.4)枚　出芽期 10/ 6(10/ 2)	は種期　9/30 (9/25) は種終 10/ 8 (10/ 3)
大豆	―	成熟期　9/17(9/25)	収穫期 10/13 (10/25)
小豆	―	成熟期　8/29(9/ 8)	収穫終 10/13 (10/20)
てん菜（直播）	―		収穫始 10/ 8 (10/13)
牧　草	―		二番草 収穫終　9/19 (9/29)
サイレージ用とうもろこし	―	黄熟期　9/ 6(9/13)	収穫期　9/20 (9/24) 収穫終　9/29 (10/ 6)

畑　作

＜秋まき小麦＞

今年のは種期は 9/30 で、降雨の影響で平年(9/25)よりかなり遅くなりました。

は種後は気温も高めで、土壌水分もあったため出芽は良好で、出芽期は平年より４日遅い 10/6 です。10/15 現在の生育は平年より遅れています。

雪腐病は、連作ほ場や遅まき、深まきによる生育不良で発生しやすくなります。本年は葉数が少ない状態で越冬することになりますので、起生期茎数を確保するため雪腐病の防除を徹底しましょう。

以下のことを参考に適正防除に努めてください。

1　雪腐病防除

雪腐病の種類によって効果のある薬剤が異なります。過去の発生状況に応じた薬剤を選定しましょう(表１、２)。

また、殺菌剤の防除効果の低下は、散布から根雪始めまでの期間の降水量が大きく影響します。この期間が長いと、降雨に遭う確率が上がり、防除効果が低下するリスクが高くなります。気象やほ場、散布機械の運用を考慮し、できる限り根雪に近い時期に散布しましょう(表３)。

ただし、残効性に優れる薬剤を用いる場合は、早めの防除も可能です(表４)。

表１　雪腐病の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用倍率（倍）	使用回数（以内）	使用時期	紅色雪腐病	黒色小粒菌核病	褐色小粒菌核病	大粒菌核病
フロンサイドSC	29	1,000	2回	根雪前	●	●	●	●
トップジンM水和剤	1	2,000～2,500	3回		×	×	×	●
シルバキュアフロアブル	3	1,000～2,000	1回		×	●	●	×

※●　道指導参考である　○登録はあるが指導参考になっていない　×登録なし

表２　無人航空機による雪腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	処理濃度（倍）	散布水量（ℓ/10a）	使用回数（以内）	使用時期	紅色雪腐病	小粒菌核病	大粒菌核病	なまぐさ黒穂病	浸透移行性
フロンサイドSKY	29	8	0.8	2回	根雪前	○	○	○	○	×
		16	1.6							
トップジンMゾル	1	10	0.8	3回		×	×	○	×	○

表３　過去の根雪初日(帯広測候所調べ)

年次	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	10年間平均
根雪初日	11/24	12/6	11/18	12/6	12/2	1/7	1/2	12/17	12/12	12/31	12/12

※根雪始日は積雪が30日以上継続した場合に遡って決められる

表４　雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除の目安(H26 普及推進事項)

薬剤名	根雪日までの積算降水量	
	雪腐大粒菌核病	雪腐黒色小粒菌核病
フロンサイドSC	120mm（日最大降水量　65mm）	120mm（日最大降水量　65mm）
トップジンM水和剤	80mm（日最大降水量　40mm）	―
シルバキュアフロアブル	―	100mm（日最大降水量　40mm）

※発病度25（茎の半数以上が枯死した個体の割合が10%以上）を超える降水量の目安

※地上散布（水量100ℓ/10a)で検討した結果である

※フロンサイドSC、トップジンM水和剤、シルバキュアフロアブル以外では上記雪腐病に対する残効性の防除目安はない

2 雑草対策

雑草は「養水分の収奪」、「病害虫繁殖の助長」などで、結果的に収量・品質の低下に繋がります。

除草剤を適正に使用し、雑草対策を行ってください（表５）。

表５　秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	薬量 ml/10a	使用回数
ガルシアフロアブル	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	麦の４～６葉期 （越冬前）	200～250	1回以内

※砂土では使用しない。激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。

＜豆　類＞

大豆は収穫を残すのみとなりました。

可能な限り品質の維持に努めましょう。

1 大豆の収穫

ア 汚粒対策

青立ち株（わい化病株）や雑草（特に紫色の実をつけるイヌホオズキ）は事前に抜き取っておきましょう。

また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を行いましょう。

イ 収穫適期

汚粒の原因に大豆の刈り取り時期も大きく影響します。子実水分が 20%以下（最終は 16%以下）とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を止めましょう。

また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。可能な限り適期収穫を心がけましょう。

※コンバイン収穫の場合、収穫適期幅は短いため、事前にコンバインの点検・整備を入念に行いましょう。熟莢率が 100%となり、子実水分が 20%以下となったら試し刈りを行いましょう。茎表面に「ぬめり」があるときは収穫を中止しましょう。

＜てんさい＞

下記に注意し収穫作業を行ってください。

1 収穫時･貯蔵時の注意点

ア 収穫時の注意

・根腐症状など腐敗が生じている部分は別掘りとし、腐敗混入を防ぎましょう。
・収穫作業は輸送計画に基づき、集荷日の２～３日前には終了しましょう。
・タッピングの高さに注意しましょう。
・直播栽培では、移植栽培より根長が長くなります。収穫物の損傷状況を確認し、掘り取り深さや作業速度を調節しましょう。

イ 貯蔵時の注意

収穫したてんさいをほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず防水シートなどで被覆し、腐敗・乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

2 床土の準備

来年用の床土を準備する際には病気の恐れのない土を用意し、ｐＨ測定後、6.0～6.5になるよう酸度を矯正しましょう。

3 ハウス内のアブラムシ対策（テンサイ黄化病）

テンサイ黄化病の病原ウイルスは、主にモモアカアブラムシが媒介します。ビニールハウスなどで越冬したものが、次年度の病害の感染源となりますので、以下の対策をしましょう。

・越冬ハウス内における作物残渣物や雑草の除去（特にアブラナ科、ナス科など）。
・厳寒期のハウスビニール除去またはハウス側面の長時間解放をする。

＜ほ場管理等＞

1 後作緑肥のすき込み

後作緑肥のすき込み時期が遅れると緑肥が雑草化したり、すき込み後の分解が遅れ、春先の植え付けに影響します。気温・地温が確保できるうちにすき込みましょう。すき込み方法は次の①～③があります。

①プラウで直接すき込む
②ストローチョッパで細断後に、プラウですき込む
③ロータリーやデスクハローで表層土と混和した後、プラウですき込む

緑肥の種類や生育量により、すき込み方法を選びましょう。

表６　主な後作緑肥のすき込み時期(北海道緑肥作物等栽培利用指針)

緑肥作物	すき込み時期	判断の目安	C/N比
えん麦 えん麦野生種	10月中・下旬	出穂後早めに	15～25
シロカラシ		開花後早めに	12～20
ひまわり		開花後 7～14日	15～20
ヘアリーベッチ		―	10～15

※C/N比は低いものの方が高いものに比べて速やかに分解する

2 堆肥の施用

窒素の溶脱を避けるために、できるだけ気温が低くなってから施用し、散布後に耕起をしましょう。

3 土壌診断の実施

適正な肥培管理と肥料コストの低減のため、土壌診断を実施しましょう。近年、リン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にあり、注意が必要です。

ただし、ほ場によっては不足している場合もあるので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。

4 ほ場の透排水性の改善

収穫後のほ場は、晴天が続く時期を見計らって心土破砕や広幅心土耕を行いましょう。ただし、施工時の土壌水分が効果に影響するため、なるべく「土壌が乾いたときに」「低速（時速２ｋｍ/ｈ以下）で」「密に」「暗きょと直交するか、少なくとも平行しないように」施工することが重要です（いずれも暗きょが効いていることが前提）。

5 土の移動に注意

収穫・耕起作業などで土壌の付着した作業機のほ場への出入りが多くなりますので、土壌病害虫の侵入に注意しましょう。

以下の土壌病害虫は数年から数十年土壌中で生き残るため、特に注意が必要です。

表７　注意すべき土壌病害虫とその対策

注意すべき土壌病害虫		具体的対策事項
害虫	・ジャガイモシストセンチュウ ・ダイズシストセンチュウ	・連作をしない。 ・ばれいしょは野良イモ対策を実施する（雪割りなど） ・抵抗性品種※を輪作体系に加える ・土の移動は極力避ける（プラウ、ロータリー、ハーベスタなどは、土を落としてから移動する）
病害	・コムギなまぐさ黒穂病 ・縞萎縮病	

※抵抗性品種例
ジャガイモシストセンチュウ：コナヒメ、キタアカリ、さやか、ぽろしり
ダイズシストセンチュウ：ユキシズカ（レース3抵抗性）、ユキホマレR（レース1、3抵抗性）

6 収穫後の機械整備

機械の点検・整備は機能の維持、耐用年数の延長、安全性の確保につながります。収穫が終了した作業機は掃除・洗浄を行います。機械格納庫で長期保管する前に以下の作業を行いましょう。

- 燃料を満タンにし、バッテリーを外す。バッテリーは室温で保管し、比重計で比重を確認して充電状態を保ち過放電を防止する。
- 各部の点検調整を行い、さびやすいところは薄くオイルを塗り、湿気を避けて格納する。

・日没が早くなり、すぐに視界が悪くなります。
ゆとりをもって、無理のない作業を心がけてください。
・公道を通行する場合は、早めにライトを灯火し、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
・収穫機の調整や詰まり除去のときは、必ずエンジンを止めましょう。
・衣服の裾やひも等は、機械に巻き込まれる危険があります。バサバサさせずに身体に密着させましょう。
・機械の周辺では、声を掛け合ってお互い事故の防止に努めましょう。
・ダンプトラックの荷台を上げて作業するときは、油圧を過信せず、必ずストッパーを使用しましょう。
・収穫残渣物のほ場での焼却はやめ、堆肥化に努めましょう。